

雌阿寒岳

○雌阿寒岳の火山性微動

群発地震活動期間中に発生した、9月29日の微動について、長周期シグナルの有無を確認するとともに、2006年2月19日の微動と比較した。今回の活動では北東側に新設した観測点FPSでも微動の信号をとらえることができた。観測点FPSでは、同一の地震計台の上に地表設置型の傾斜計も併設している。

観測点MEAでは2006年当時と同じ状況で広帯域地震計が稼働しており、単純な波形比較が可能である。速度記録に基づく微動振幅は2006年2月の活動の方が若干大きい、ファクター程度の違いしかない。しかし29日の微動では、2006年の微動に重畳したような、長周期の見かけ変位ステップ(傾斜変動)は認められない。新設した観測点FPSでの地震計記録についても同様である。傾斜計の記録には、微動による短周期の振動に重なって長周期のパルスが重畳しているようにも見えるが、微動の前後にも同程度の振幅の長周期ノイズが認められ、有意な信号であるとは言い難い。観測点MEAでもこれに対応するパルスが認められないことから、このたびの微動では、火山起源の長周期シグナルはなかったと思われる。

